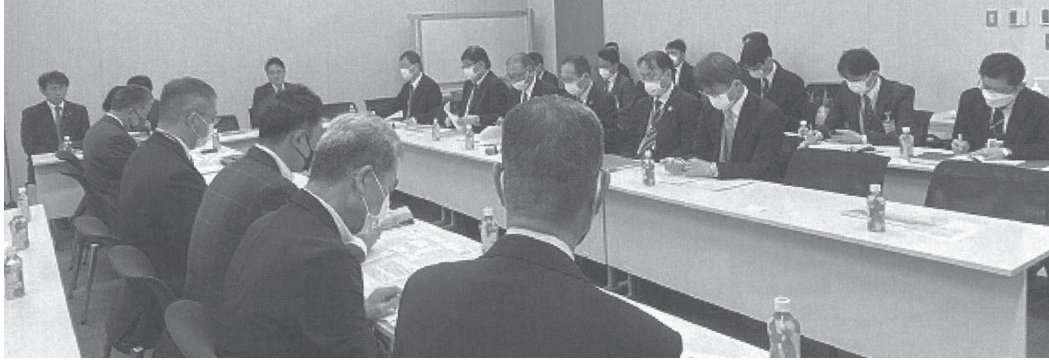


(一社) 木の総合文化・ウッドレガシー推進協議会

木製サッシに関する関係省庁からの回答を確認

建具の木材利用と断熱性に優れた窓の普及を推進



(一社) 木の総合文化・ウッドレガシー推進協議会(原口博光会長)は4月10日、東京都千代田区の衆議院第2議員会館において第1回政策実現委員会を開催。民政官合同会議での諸官庁からの回答書に対する協議、並びに木製サッシの防音工事標準仕様書に関する協議を行った。

同会は木材関連産業の発展を目指し、業界の様々な改善要望を、ウッドレガシー議員連盟(衛藤征士郎会長)を通じて関係する諸官庁に届け、要望内容を実現させる活動を展開している。今回、これまで実施してきた要望活動において具体的な政策に反映させるべく、組織内に政策実現委員会を設置。原口会長が委員長となり、5名の委員で構成。第1回政策実現委員会には議員連盟から柿沢未途議連事務局次長、武部新事務局次長、三宅伸吾事務局次長が出席。官庁では国土交通省、防衛相、林野庁から合計11名が参加。

ウッドレガシー推進協議会からは政策実現委員会のメンバーに加え、今回の議題である木製サッシに関連して木製サッシメーカーである(株)日本の窓の荻野智二社長をはじめ3名が出席した。

木製サッシ：関係省庁の回答

今回の会議では木製サッシに関して関係官庁からの回答内容を確認。

環境省は「木製サッシは一般的に省エネ性能が高く、複層ガラスの場合には、アルミサッシに比べて25%程度断熱性が高いと承知している。環境省は住宅の高断熱化による省エネ・省CO2化を支援するため、従来からZEH化などによる建築物の脱炭素化を推進する事業を行っている他、断熱窓への改修促進事業を令和4年度補正予算案にも盛り込んだ。これらも活用し、木製サッシも含めて断熱性能の高い窓の普及を促進する」と回答。

国土交通省は「木製サッシは省エネ



柿沢未途 議員 (議連事務局長)

基準の適用にあたっては、断熱性能が高く評価されており、その普及を図ることは住宅・建築物の省エネ性能の向上につながる。令和4年11月に公布・施行された誘導仕様基準の的確な運用は木製サッシの普及を促す効果があると考えられる。建築士や住宅事業者向けの講習会などで性能の高いサッシが有効な選択肢であることを周知していく」と、木製サッシの普及促進に言及。

林野庁は「木製サッシは省エネ性能が高いと言われておりと承知している。また、針葉樹の無垢材の活用も多く、構造材と比べ付加価値の高い木製サッシなど建具への木材需要が拡大すれば、林業の採算向上にもつながると考えている。このため川上から川下までの事業者の連携による高付加価値な製品の開発・普及、CLTや木質耐火部材などの製品・技術開発や建築物への実証への支援に取り組み、木製サッシについても支援することも可能」と、林業支援の観点から木製サッシの普及を支援。

防衛省は「令和2年度に木製サッシに係る国内の製造状況、性能、価格などについて情報収集を行い、その結果を踏まえた検討などの調査業務を行っ



原口博光 会長 (政策実現委員長)

ている。当該調査結果を踏まえ、防音工事における木製サッシの取り扱いについて引き続き検討していく」と、防音建材としての機能性を検討する旨を伝えた。

次回は家具をテーマに議論

関係官庁からの回答を受け、原口委員長は「第1回目の政策実現委員会では木製サッシに焦点を当てた。今回の回答で木製サッシに関しては環境省と国土交通省から性能の高さが認められ、防衛省からも前向きに検討するという回答があり、これらの事柄を政策実現委員会では確認できた。現在、日本の窓の住宅用サッシにおける市場占有率は1%程度であるが、日本産材の需要拡大は政府の目的に合致する。木製サッシが現行の性能基準を満たしていることを広めていきたい」と、今回のテーマである木製サッシに関する諸官庁からの回答を評価すると共に、木製サッシの普及拡大に意欲を示した。

第2回目以降の政策実現委員会のテーマや開催時期は未定であるが、原口委員長は「第2回目では家具を取り上げたい」と語った。